

阿知須町民憲章

- 一、勤労を尊び、奉仕の精神で励みます。
- 一、スポーツに親しみ、健康で明るいくらしを築きます。
- 一、生涯を通して学び、うるおいのある生活を求めます。
- 一、きまわりを守り、温かい心のふれあいを広げます。
- 一、伝統と自然を大切に、住みよいまちをつくりまします。

昭和63年

№433

1 / 1

山口県吉敷郡阿知須町  
発行 阿知須町役場  
電話 4111番(代) 754-12

広報あじす 毎月5日 発行  
お知らせ版 毎月20日 発行

賀正

# 力を合わせて 全国大会へゴーツ

猛練習のなかで培った抜群のチームワークとパワーで県予選を突破。二月に東京で開かれる「全国農協共済綱引き大会」への出場が決まった福鳴牧場チーム。

わたしたちも見習って、今年一年みんなの力でまちづくりに励み、幸運を引き寄せたいものです。  
〈全国大会出場者名〉  
福鳴経男(井関) 福鳴讓(二岡)

大田功(向井関) 大田スミエ  
(同) 重村栄(同) 福永宏志  
(引野) 松田竜夫(小南) 西村賢治(飛石) 藤田敏彦(河内) 松永義夫(岡)  
〔敬称略〕



物心共に豊かな町を

町長 三好正之



新年おめでとうございます。辰年の新春を皆様とともに迎えることができましたことをまず、およろこび申し上げます。今年も私も阿知須町民が、健康で、心豊かに、平和な年でありますことを、また活力ある町づくりが、できますことを心から願ってやみません。

旧年は皆様方のご協力により、町の重点施策も計画どおり推進できました。特に長年の夢でありました干拓地の開発問題もようやく具体的な日程に上がり、いよいよ二十一世紀へ向けての活力ある町づくりの基盤づくりが実現するに至りました。また、これにも偏らぬ町民各位のご理解ご協力によるものと深く感謝いたしております。

また、県営の圃場(ほじょう)整備事業にも着手し、阿知須土地改良区も設立され、厳しい農業事情の中で、新しい息吹きを与えるものと確信いたしております。商業につきましては、単なる買物の場ではなく、新しい暮



しの広場をめざす「コミュニティ・マーケット」計画がいよいよ実施の段階に入りました。地域商業の核としてまちづくりに大きく寄与することが期待されます。漁業関係は漁場・漁港の整備も年次計画にのぼるなど町の産業発展の柱組みが一つ一つ構築されつつあります。

また、町道の本由良東岐波線(赤迫―浜表―岡地区)の完工、岩倉東西線(岩辻)はいま改良中など交通網の整備も進んでいます。福祉面ではひとり暮らし老人のデイサービス、福祉センター新築、児童養護施設・清光園の開園など名実ともに「福祉推進宣言の町」としての進展を遂げつつあります。これからは、それらが総合的に機能し、物心共に豊かでより喜びの大きい町として、躍進することを願ってやみません。

小林敦子

あらまし

阿知須を調べる

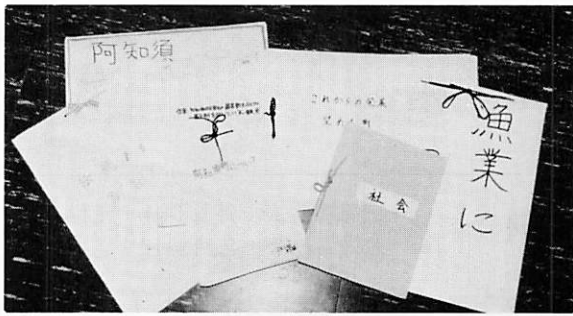
中学生の郷土研究

わたしたちの住んでいる阿知須はたいへん住みやすい町です。広い平野があり、海に面して気候もおだやかで、交通もたいへん便利です。昔から郷土を愛する人々がまちづくりのためにたいへんな仕事をされたので、今のよ

うな阿知須町になったのだと思います。私たちのふるさと――阿知須を調べ、これからの阿知須の町をどうしたらよいか考えていくことは、私たちの大切なつとめであると思います。

阿知須中学校(山本幹雄校長、生徒十二クラス四百二十四人)では夏休みの宿題として同校の二年生に「阿知須を調べる」という課題を出しました。生徒たちは一人で、あるいは仲間同士で町のいろいろなことを調べました。そこで、今回は二年一組の小林敦子さんの論文を中心にみていき、中学生のみたあじすを紹介しましょう。(一部原稿、資料等を補筆、訂正、削除しました)

阿知須



阿知須町役場

- 町長 三好正之
助役 蔵富士和男
収入役 山田満雄

阿知須町教育委員会

- 委員長 工藤靖夫
委員 兼重一
委員 釈野憲章

阿知須町議会

- 議長 松浦有朋
副議長 沢田隆夫
総務委員長 武永典寿

- 副委員長 中村徳男
委員 松本隆夫
委員 長久清忠

- 産業委員長 大下義明
副委員長 岡藤豊
委員 竹原繁雄

- 委員 上野政藤
委員 正司重徳
委員 古田博亮

- 社会委員長 石川二郎
副委員長 桂直樹
委員 徳永孝一

- 委員 村田ツエ子
阿知須町監査委員 伊藤繁

阿知須町農業者委員会

- 会長 松崎照雄
会長職務代理 酒井好孝
委員 上田太一

- 委員 武永輝男
委員 中戸秋吉
委員 西山泰

- 委員 福永陽吉
委員 藤重義春
委員 前野千代治

- 委員 松崎正月
委員 正司重徳
委員 山本輝義

- 委員 濱村見一
阿知須町選挙管理委員会

阿知須町選挙管理委員会

- 委員長 木原百合雄





表2 専・兼農家の比較

	農家数	専業農家	%	兼業農家					
				第一種	%	第二種	%	計	%
昭和40年	918戸	93戸	10.1	303	33.0	522	57.0	8825	90.0
〃 50年	821戸	68戸	8.3	84	10.2	669	81.5	753	91.7
〃 60年	758戸	71戸	9.4	53	11.1	634	88.3	687	90.6

(注) 第一種兼業農家：農業を主とするもの  
第二種 〃：農業を従とするもの

資料 県統計年鑑

が作っています。少しといつてもお米をつくるというのとはとても大変なことのようです。田植えから刈り取りまで毎日のように田に出かけます。農業もまかなくては行けないので刈り取りが済んだあと「やれ、やれ」と言っています。

私も少し手伝ったことがありますが、すぐ疲れてしまいました。機械化がすすんだとはいっても、小さな仕事が大変

くさんあるのでたいへんです。◎畑

米のほかにとのような作物がつくられているのだろうか調べてみました。

阿知須では小高い丘を利用して大根、スイカ、たばこなどがつくられているようです。スイカは「日の山スイカ」といわれているそうです。

またビニールハウスを利用してスイカ、メロン、イチゴ、花作りが最近盛んに行われるようになりまし。ビニールハウスを利用すると取り入れの時期をずらすことができるので、高い値段で作物が売れることが多いためです。しかし、ハウス栽培は世話が大変なので農業が主体の農家などに多くみられるようです。

◎大根作りとたくあん 阿知須町の土地や気候は大根作りに適しているのが昔から行われてきました。取れた大根は加工して「山口たくあん」「寒づけ」として売り出されています。

戦争中から戦争の終わったころが最も大根づくりがさかんで百ヘクタールもの大根畑がありました。また、たくあんの加工場も二十以上ありまし

山口たくあんのほとんどは県内に売られています。広島、福岡をはじめ大阪や東京にも売られています。寒づけは町の特産物として売られています。

5、漁業

今は海の汚れや干拓の工事などによって魚の獲れる量も少なくなり、漁業をやめて、ほかの仕事に変わった人もいます。

今では約五十軒の人たちが漁業をおもな仕事にしています。

阿知須はけっこう魚の種類は豊富でボラ、カレイ、アナゴ、エビ、メバル、キス、タコ、スズキなどの魚や貝類がとれます。

小型底引き船で漁業をする人は阿知須浦から竹島沖へ、刺し網などの小型船は山口港、東岐波の月崎あたりの漁場へ出かれます。

夜、私たちが休んでいるころ、沖では漁師さんが一生懸命になって網引きや釣りなどで魚をとっています。

◎魚をとる方法 昔からいろいろ工夫されてきました。一度にたくさん魚をとるには底引き網で海の底を引いて魚をとります。大きな網を動力船であやつり漁をします。

その他、刺し網、たて網、はえ縄、たこつば、一本釣りなどの方法で漁をします。

最近、魚が少なくなったので魚が卵を産むころには魚を休んだり、とる期間や網の目の大きさを調整して魚をふやす努力をしています。

◎栽培漁業 魚をとるだけでなく、育て

ることに力を入れています。魚や貝などを養殖したり、魚礁といって海の底に魚のアパートを設置したり、車エビやカレイなどの稚魚を放流したりしています。

阿知須の海では冬の始めから春の始めのころにかけて、ノリ作りをします。近ごろでは大きな乾燥機で乾燥させて一度にたくさん枚数のノリがつくられるようになったそうです。

◎魚市場と送り先

私の家の近くに魚市場があります。近くの海でとれた魚が並べられ、町内の魚屋さんが集まります。昔はとも古かった魚市場も、最近建て替えられてとてもきれいになりました。

せりが始まると、威勢の良い掛け声が聞こえてにぎやかです。終ると魚屋さんは、せり落としたばかりの魚を市場の前で売ったり、岩倉や井関校区へ行商に出かけたり、店で売ったりします。

6、まちにある古いもの

◎弥生・古墳時代 約二千年前の人のはけものや魚、貝をとって暮らしていました。そのころ阿知須は浜表や赤迫のあたりまで海だったそうです。人々は、小高い丘の上や山に住んでいました。

黒谷ため池の北にある貝がら山には、そのころの人が食べて捨てたと思われる貝がらや土器が見つかっています。



寺河内	西条	中村	縄田北	東田南	築地	恵比須	南祝	北祝	前山	小古郷南	小古郷西	小古郷東	網広	博幸	上杉	春見	納税組合長
洪木	三宅	田坂	末重	谷川	門出	縄村	中野	河村	林	御堂	浜中	一豊	縄田	要治	沖永	隆司	貢
保俊	精功	益一	栄	太助	敏甫	正教	拓彦	任清	國雄	昭一	石川	竹内	久江	和雄	伊藤	俊彦	健一
中本	縄田	杉谷	山田	網田	弘中	塩谷	市川	小松	石川	竹内	久江	和雄	伊藤	俊彦	健一	正規	苑長
清	重光	計祐	満雄	敬	鉄夫	敏彦	成美	大和	和雄	久江	和雄	伊藤	俊彦	健一	正規	苑長	伊藤

- 防犯連絡所指導員会 長 酒井 好孝
- 阿知須町体育協会 長 三好 正之
- 阿知須町文化を高める会
- 阿知須婦人会 長 兼定 彰
- 井閑婦人会 長 福富久美代
- 青年同志会 長 水本 絹代
- 青年団 長 浜崎 敦二
- 老人クラブ連合会 長 藤重 政浩
- 子ども会育成連絡協議会 長 工藤 一雄
- 遺族会 長 大沢 義雄
- 母子寡婦福祉会 長 飯田 宏史
- 更生保護婦人会 長 井上ミサホ
- 環境衛生組合連合会 長 尾上 孝子
- 阿知須町農業協同組合 長 徳永 孝一
- 阿知須漁業協同組合 長 橋本 輝義
- 阿知須町商工会 長 野村 平吉
- 吉南信用金庫阿知須支店支店長 野村 大家
- 山口銀行阿知須支店支店長 野村 哲雄
- 阿知須郵便局 長 伊藤 俊彦
- 同仁病院 長 西田 健一
- 共立病院 長 三好 正規
- 白松苑 長 伊藤 苑



約千五百年前、勢いの盛んな人たちは大きな墓を造らせました。その墓を「古墳」と言い、丸塚山で何か所も見つかっています。素焼きの土器

などが出土しています。

◎居倉造りの家

明治から昭和にかけて阿知須は回船業が盛んでした。縄田地区を中心に、米を関西に

運んだりして、お金持ちがたくさんいたようです。

明治時代に東条に大火事があつたので、お金持ちの人たちは白壁と瓦で家を造り、火

事から家を守ろうとしました。これが居倉造りの家で、今では縄田地区を中心に砂郷や中村地区で見られます。

ます。

### 阿知須を調べる……私たちがこう考えた

漁業をする人は  
がんばって続けて

渡辺道子

いつも何げなく食べてきたややくしきてきらしいな魚も、漁業に対して興味をいだいてきたので好きになりました。これからは漁業をする人たちの姿を思いながら魚を味わって食べていこうと思います。漁業をする人は、これからもがんばって続けて欲しいと思います。

工業はまんべんなく  
発展したらよい

滝本英美

町の農業は、ほとんどが機械化し、その機械も各自が持っているのので、効果的でありません。少しずつ共有化がはかられています。

機械化がすすんだために、短時間で仕事ができ、人数も少なくてすむし、力仕事もいなくなつたから兼業農家が增えたのだと思います。今では非農家も農家も生活

に特別な違いはありません。阿知須の農業は発達しているが、後継者がなかなかいないのが問題だと思います。工業はまあまあ発達していると思います。

しかし、工場数から考えても勤労者数から考えても、食料関係などにかたよがりがあり、もう少しまんべんなく発達した方がよいと思います。

町の課題は干拓利用

藤田ゆう子

私は阿知須は緑がいっぱい空気の良い町であつて欲しいと願っています。だから、これ以上、自然をこわさない方がよいと思います。町の今後の課題は干拓の利用のしかただろうと思つてい

農家の人に感謝

小倉ひとみ

阿知須の農業について調べているうちに私は一つ思ひました。

それは「時はいつも進んでいる」ということです。いろんな物が作られたり、いろんなことがありながら、時は進んでいる……。

レポートの中に「明治」とか「大正」などの文字を書きながらそう思ひました。

「大正〇〇年」と書くのは数秒だけ、その時の一日や一年は長かつたんだらうな……と考えると、その時代に生きた

人に感謝しないとイケないと思ひました。

食生活が豊かになり、米以外の消費がふえて、米があまつてしまうので、農家の人にとっては大変な問題となつています。

ものを一つ食べるにしても感謝の気持ちを持たなければ、何か農家の人たちに悪いような……そんな気持ちを調べたと持ちました。

農業はほ場整備  
と協同化が大切

中田憲吾

いま日本では外国から米を輸入しないとイケないという

文化財を未来に残そう

沖永健一

阿知須にはたくさんのお古墳や神社があります。先祖が残してくれた文化財を大切に保つていくことが大事だと思います。

常に主要文化財にふれていき、確実に未来に残して行かなければいけないと思ひます。

ことなどから、自由に米を作ることができなくなりました。阿知須でも耕地面積のうち約六〇%しか米を作つてはイケないということ聞きまし

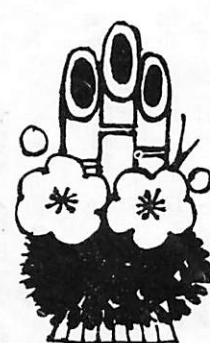
た。阿知須は第二種兼業農家の数が多いし、若い人たちが町外に流出しています。そこで労働時間や労力を少なくすむようにすると同時に、生産性を高め、品質を良くするために、ほ場整備を行い、協同化を進めることが大切だと思います。

そのことが、これからの農業の近代化につながっていくのだと思います。



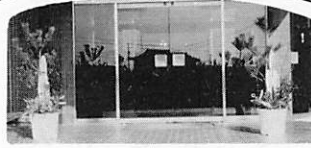
焼青	仙引	向井	源河	河内	杖川	野口	井関	赤迫	浜表	岡松	門北	旦西	旦東	旦上	岩倉	岩倉	岩倉	岩倉	沖の	飛石	砂郷	砂郷	砂郷	浜
野畑	在野	関野	河内	内川	川口	関野	関野	迫野	表野	松野	北野	西野	東野	上野	上野	前野	前野	前野	原野	石野	三区	二区	一区	猪野
秤谷	小林	岡田	大田	磯中	山根	藤田	蔵富	弘中	高重	戎谷	伊藤	背戸	藤井	平川	徳永	西村	松田	伊藤	田辺	野村	小林	重村	香川	敏夫
子	敏雄	春一	信三	一則	忠一	博道	士允	守	等	義雄	藤三	山喜	邦男	慶治	孝一	剛	茂	ツエ	忠志	大象	義和	幸作	三男	久雄
同上	同上	板井	村田	堅田	藤井	岡野	米金	弘中	古谷	藤井	八木	松本	同上	武永	下河	石丸	高井	上野	田辺	石地	同上	桜井	岡野	吉岡
		進	時代	美智子	邦子	フジエ	正文	凱子	愛子	フミエ	沢江	ミドリ		輝男	孝	直枝	昭博	道宣	浩二			誠一	保	

(十二月二十日現在)





# 公民館だより



## 自分に適した学習を 「生涯教育推進のあり方」答申

去る十二月十九日阿知須町社会教育委員会・大沢義雄副議長から工藤靖夫教育長に「阿知須町における生涯教育推進のあり方について」の答申書が手渡されました。

自己の充実や生活の向上のため、各人が自発的意思に基づき、必要に応じ、自己に適した手段・方法を自ら選んで行なう学習が「生涯学習」です。

阿知須町社会教育委員会は昭和六十年五月町教育委員会から「阿知須町における生涯教育の

人々とのふれあいを大切に健康でありたいと願っています。

公民館をよく  
利用される  
辰年  
生まれの  
みなさん



江美久藤 工  
(昭和27年生まれ)



香田 律子  
(昭和2年生まれ)



一陽 竹原  
(明治37年生まれ)



西村 亮二  
(昭和51年生まれ)

いろいろな行事に参加してみたい。勉強もがんばりたい。

健康で歌謡クラブの皆さんの和を大切に行きたい。



守 平岩  
(昭和15年生まれ)



あり方」の諮問を受けて以来、二年有余にわたり、生涯各時期の特性・現状や課題について検討・協議を重ねてきました。

答申は、「生涯教育の意義と重要性を認識し、教育機能の総合的な整備充実等、行政の上でぜひとも生かされることを願う」の言葉で結ばれています。

### 七草がゆを食べよう

町教委では、成人の日の一月十五日(金)体力づくり耐寒ハイキングを行います。  
参加希望者は一月十二日(火)までに町教委へお申し込みを。なお、当日は一人米一合ご持参ください。

### 2月11日にスキー教室

町教委では、冬期野外スポーツ教室(スキー教室)を二月十日(土)に実施します。これからは充実した余生を送りたい。



三吉 吉スミコ  
(大正5年生まれ)

今年辰年。十二年に一度めぐってくる自分の年を迎え、辰年生まれのみなさん、今年も良い年であることをお祈りいたします。



上野 一郎  
(昭和39年生まれ)

今年こそ、立派な社会人になるぞ!

一日(木・建国記念の日)に十種ヶ峰スキー場で行います。

参加対象は、町内在住者で親子での参加を優先します。

参加申し込みは、一月七日から十二日まで町教委へ。

くわしいことは、各戸で配布するパンフレットをご覧ください。

### 町内駅伝大会の成績

(11/10 休協、町教委主催)

○総合 ①砂郷(52分59秒)

- ②赤浜 A
- ③小古郷
- ④且岡
- ⑤東条
- ⑥縄田
- ⑦引野
- ⑧岩倉
- ⑨河内・源河
- ⑩赤浜

### ○区間賞(敬称略)

- ▽一区(小学生) 山田拓広(小古郷)
- ▽二区(青年) 小林厚生(砂郷)
- ▽三区(中学生) 中村晃(赤浜 A)
- ▽四区(40歳以上) 西村泰昭(赤浜 A)
- ▽五区(高校生) 柳井喜春(引野)
- ▽六区(30歳以上) 沖永清治(小古郷)
- ▽七区(青年) 国重康彦(砂郷)

ペン  
シリウス

スポ少  
④

### 井関サッカー スポーツ少年団

井関サッカースポーツ少年団は男子団員三十二人、女子団員十六人で、会費は月五百円です。

練習は週三日、一日平均二時間ずつ、各個人のレベルに合わせて個人技を中心に、体力強化を目指しています。

卒業生の中には、山口県選抜や中国選抜に選ばれた子も何人かいます。

主な年間行事は、夏の合宿、秋の招待試合、冬のスキー実習や各種大会への参加などです。

指導方針は「サッカーを教えるのではなく、サッカーで教える」を基本的な考えとして、長い目で子供たちを見守るようにしています。



また母 集団である後援会にも積極的に活動に参加してもらいたい

ある児童を、短期に評価せず、指導者の「権力」で子供たちの自主性や考えを押しつぶすことのないよう心がけています。

「指導者と一緒になって子供たちを育てる」という意識を持ってもらっています。「サッカーが大好きだ」という児童は、すでに計り知れない大きな「力」をそこに秘めています。その「力」を児童たちが、一生懸命がんばって自分のものとするのができるよう、私たち指導者・後援者はあたたかく見守り、育て、伸ばしていきたいと思っています。

連絡先 古川 修(野口)  
☎ 二二四〇



# ふれあい広場

「ふれあい広場」はみなさんのページです。町政への提言や身近かな話題、絵画、写真など町企画課（有線二四四）へお寄せください。



## 交通安全教育に取り組んだ 阿知須小学校の教務主任

前原 浩 志さん(五五)

阿知須小学校(常田泰雄校長、生徒十四クラス、四百六十六人)が交通安全教育でこのほど文部大臣表彰を受賞したことについて、安全教育推進役の一人、教務主任を訪問。



でやればよいのかわからず、先生の集会でずい分話し合いました。具体的には学級

五十八年から二年間、県の交通安全教育研究指定校となつて以来の成果が受賞のおもな理由と聞きました。

単位で週一回「特活」という時間を使って、学年ごとに月別のテーマとか、ねらいを決めて実施しようということになりました。苦労したのは、子どもたちへ知識だけを与えることで終らせられなかった点です。つまり、

頭だけでなく、心にも体にも教えるということ。研究校の指定がなくても、この教育方針は変えていません。

「心の方は、生命の大切さや思いやりを教えました。体の方は子どもたちに実際に事故が起きたときの恐ろしさを体験させるために、模型を作ったり、先生方が8ミリやビデオを撮って来たりしました。阿知須校区には狭い路地が多いので、特に飛び出しに注意しました。この心にも体にも教える教育が高く評価されたと思います。」

生徒の無事故記録は五十八年八月二十五日から始まって四年余を記録更新中ですが「それは、あいさつ道路や交通

車迫る震動に驚き目覚めぬ遠き日の客馬車に乗り新川駅行きもどりせし日思ひ出残る招かれて送り迎への車椅子友の気配りうれしく思ふ

## 短歌

御題「車」によせて

松代 二郎

干拓の土運ぶ車堀外の路に響きて又通り行く

正司 ウメノ

人力車に乗りて京都をめぐる七十年前の昔懐かし

松尾 君代

釣を好む夫の車潮さびし曳かれ馬の如く車検受く今日

藤重 アヤ子

あとさきの呼吸合せて一輪車に遠き干潟を貝運びゆく

藤重 幾代

選手団に車椅子の友の名を見出でて今日の新聞たのし

師井 泰枝

未だ来ぬバス待つ前を行き交ふる車の波を眺めつつまつ

松重 三次

窓元の小さき流れにしかけたる水車の音の絶ゆる間もなし

砂村 ヤス子

青春の思ひなつかしせせらぎの流れに沿ひて花車まわす

古谷 トヨ

駅までと嫁の車にたよりつつ歩めば遠き道のり思ふ

中本 幸枝

午前六時洗ひし野菜一輪車に積みて未明の市場へ急ぐ

木原 百合雄

年毎に増える車のおびただしけるひまなしと老をさびしむ

桜井 文子

陽をさけて仮眠するそばを大形

三住 靖子

招かれて送り迎への車椅子友の気配りうれしく思ふ

古谷 ハナコ

職員慰安旅行の無事すみて帰りし車の音もうれしき

村田 ウメノ

結びあげし島田のせいかうつむきて吾娘の乗りたる車は発ちたり

渡辺 宮子

五葉松意気揚々と冬寒に姿整え正月を待つ

塩見 チヨ子

孫「洋」日々の勤めが金融部危険なきやと心いたまむ

田頭 フテ

安全標語の街頭掲示に見られるように、地域や保護者のみなさんに自主的に積極的に協力いただいていることが大きく寄与しています。学校としても、登下校や帰宅後の各地区の状況をつかむために、登校時に五・六年生が主体となったりリーダーを

## 善意はここに

つくり、危険箇所などを調べる点検カードに記入させています。実は、表彰を受けてこれからは本当に大変だと思えます。頭で学んだことをさらに「実行する」という意欲を子どもたちのなかに育てていくことが大切だと思っています。

妻ハエ子さんの▽藤重好江さん(岩上)は夫勇さんの▽山下美津子さん(前山)は夫優治さん

〈町へ〉  
◇広報送料▽縄田郁夫さん(岡山市南輝三丁目十七番十六号、砂三出身)▽磯村千代子さん(宇部市東岐波区岐波)▽蔵藤誠司さん(熊本県菊池郡大津田大字室一一五一番地あけほの団地一五三―一六、縄北出身)

〈町社会福祉協議会〉

◇香典返し▽国司恒雄さん(中村)は母トメ子さんの▽浜中一豊さん(小南)は母ハルエさんの▽岡藤盛喜さん(岩西前)は

## 死亡(冥福を祈ります)

## よきかたじけなく

出生(おすこやかに)

親の名続柄 子の名月 日住所  
松田 靖二女 千秋 10・19 且西  
中村 学二女 静香 12・2 井関  
松永博幸 長男 直也 11・29 河内  
吉野進一 長男 純一 12・5 砂一

## へおわび

出生の欄で松田千秋ちゃんが漏れていましたので、今月号に掲載させていただきます。

# 絵で見るわが町

(11月30日現在) ( )カッコ内は61年  
世帯 2,281戸 (2,279戸)  
人口 8,296人 (8,346人)



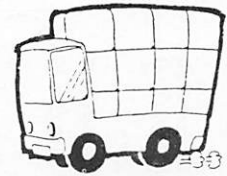
世帯構成  
1世帯 3,64人 (3.66人)



出生 年間 63人 (69人)  
男 27人 女 36人



死亡 年間 55人 (55人)



転入 年間 275人 (242人)  
転出 年間 278人 (279人)



婚姻 年間 48組 (64組)

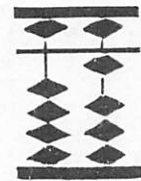


町職員 92人 (91人)

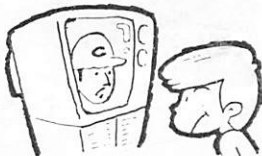
町税  
(当初予算)



町民税 1人当 32,435円 (31,321円)  
固定資産税  
1世帯当 122,040円  
(117,115円)



町の子算  
1人につき 196,346円  
(186,791円)



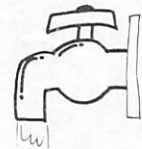
白黒テレビ 54台 (65台)  
カラーテレビ 2,144台 (2,129台)



局線電話 2,489台 (2,439台)  
有線電話 1,581台 (1,585台)



軽自動車 1,898台 (1,896台)  
二輪・原付 1,314台 (1,240台)



水道加入戸数 1,829戸  
(1,743戸)



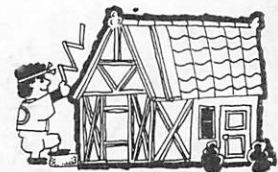
教員 阿小 18人 (21人)  
井小 10人 (11人)  
阿中 22人 (21人)



タバコ 1人1日 5.0本 (5.6本)



交通事故 年間 140件 (95件)



建築 年間 107件 (112件)  
建築確認申請(新・増・改築)

人の動き	メモ	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4
住民登録 (昭和62年12月24日現在) 人口… 8,294人 (男…3,850人) (女…4,444人) 世帯… 2,278 昭和60年国勢調査 (人口…8,407人) 世帯…2,334	2月14日 干拓草焼き				学年末テスト(阿中三年〜30日)	保護者会(阿中)					町議会最終日	心配ごと相談・交通事故相談(公、前10時)			阿小どんと焼集会、町議会一般質問			体力づくり耐寒ハイキング(公、前9時)	町議会一般質問	町議会一般質問	健康相談(役、前9時半) 育児相談(役、後1時半)				阿小、井小、阿中始業式			役場御用始め 消防出初め式	
12月の動き 出生… 4人 死亡… 5人 転入… 14人 転出… 15人	納税 町民税 国民健康保険税																												

町民カレンダー 1月

(役場…役場  
公民館…公民館  
センター…センター)